

令和2年度(2020年度) 函館市いじめ防止対策審議会 重大事態調査部会
会議記録

1 日 時 令和2年12月18日(金) 15時30分～16時40分

2 会 場 函館市役所教育委員室および各委員が指定する場所

※ WEB会議システムを活用した協議および研修

1 出席委員 伊藤 詠子, 金谷 美也子, 秋山 隆行, 三上 清和, 澁谷 昌広

伊藤 繁子, 多田 直人, 風間 和夫 計8名

4 欠席者 なし

5 発言の要旨

事務局

○ 会議の公開について確認

○ 一般の傍聴者とは別の扱いになるが、報道関係者の取材および写真撮影についてもお諮りする。

(報道関係)が来ているが、承認してよろしいか。

委員

○ 異議なし

事務局

○ 次に、議事録の公開について確認する。

○ 本会は、公開となっていることから、本日の議事録は原則インターネット上で公開する。

○ 公開の際には、発言者の氏名は伏せて公開する。

○ 内容については事務局で確認するが、各委員の皆様においては、公開されることも踏まえつつ、積極的に発言するようお願いする。

○ 開会

○ 令和2年度函館市いじめ防止対策審議会重大事態調査部会を開催する。

松田学校教
育部長

【挨拶要旨】

○ 令和2年度 函館市いじめ防止対策審議会重大事態調査部会の開会にあたり、教育委員会として、御挨拶を申し上げます。

○ 委員の皆様には、日ごろより、函館市の教育の充実のために御尽力いただいているとともに、本日は、お忙しいところ、お集まりいただき、心より感謝申し上げます。

○ さて、本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、年度当初の審議会全体会については、持ち回りによる開催とし、本日の部会についても、WEB会議室システムによる開催とした。

○ 画面越しでの協議および研修ではあるが、各委員の皆様から貴重な御意見をいただき、今後の取組につなげていきたいと考えている。

○ 各学校においては、これまで臨時休業や分散登校への対応、学校行事の延期・中止に伴う対応、学習の遅れへの対応などにより、すべての子どもの学びの保障と教育環境の充実を図ってきたが、10月28日、北海道の「警戒ステージ」への移行を受け、改めて、最新の知見に基づいた管理マニュアルに基づき、日々の教育活動を展開している。

○ 本教育委員会では、これまでも各学校に対し、子ども一人ひとりに寄り添ったきめ細かな対応を求めるとともに、本市で設置している「はこだて子どもほっとライン」をはじめ、国や道が設置する相談窓口を周知するなどの対応を行

っているが、11月27日に、各学校へ通知を送付し、感染者、濃厚接触者、医療従事者等やその家族に対する誤解や偏見に基づく差別は許されないことや、見えないウイルスへの不安から、特定の対象を嫌悪の対象としてしまうことで、差別や偏見が起こることなど、児童生徒が新型コロナウイルス感染症について正しく理解し、適切に判断し、行動できるよう指導することを求めたほか、保護者に対しても、SNS上の不確かな情報や誤った情報に惑わされないよう注意喚起するとともに子どもが発する小さなサインを見逃すことのないよう、きめ細かな見守りをお願いしたところである。

- 委員の皆様には、日ごろ感じている子どもたちの学びや育ちに関して忌憚のない御意見をいただくとともに、重大事態への対応の在り方について理解を深めていただきたいと思います。
- 本日の部会において、函館のいじめ防止等に関わる取組が、一層充実するようお願い申し上げます、挨拶とする。

事務局

- 本日はWEB会議システムを活用した協議および研修であることから、進行は、事務局が行う。
- 本日の議事は、「推進事業について」の1点となっている。委員の皆様一人ひとりから積極的な発言をお願いしたい。
- 5月の持ち回り開催でお示した事業内容について、これまでの実施状況をお伝えする。
- 対策部会「いじめ等の問題について考える集会」について
 - ・今年度の「中学校集会」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となったこと。
 - ・11月2日（月）に弥生小・戸井西小・日新小の3校を会場に、「いじめ等の問題について考える集会（小学校集会）」を開催した。
 - ・今年度に関しては、感染症拡大防止の観点から、広く周知せずを実施した。
 - ・内容は大きく2点「交流：自校の取組の紹介」「協議：いじめ見逃しゼロを目指して、私たちができること」について、話し合いを進めた。
 - ・対策部会委員の皆様も来校し、協議の参観および講評等をお願いした。
- ※ 参加者からの感想等を紹介
 - ・今回のWEBを活用した方法は、子どもたちの移動も軽減され良かったと思う。成果を全市に広めていただきたい。
 - ・「上級生から下級生への本の読み聞かせ」や「なやみ相談BOXの設置」などのいじめ対策があることを知り、とても参考になった。
 - ・皆が一生懸命考えた取組が成功したら、いじめ0（ゼロ）に近付くのではないか。
- 第2回全体会について
 - ・2月19日（金）に函館市南北海道教育センターでの開催を予定している。
- 教育委員会のその他の取組について
 - ・函館市SNS教育相談事業の試行実施について、令和元年度との変更点について説明を行う。
 - ・対象者を函館市内の中学生（附属中、ラ・サール中、遺愛女子中、白百合中も対象に加えた）とした。
 - ・実施期間を12日間から、8月17日（月）～9月15日（火）の30日間とした。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・対応時間について、午後2時から6時までを、午後5時から9時までとした。 ○ 函館市小・中学校生徒指導研究協議会の開催について ・新型コロナウイルス感染症対応として、WEB会議システムを活用した講義、シンポジウムへ変更した。 ・生徒指導担当教諭等86名が参加し、チャットを活用して質疑応答等を行った。 ○ 御質問、御意見等があればお願いします。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 函館市小・中学校生徒指導研究協議会で話題となった不登校生徒への支援の在り方について具体的な方法について出されたことをかいつまんで教えていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参加者からの感想等から2点紹介する。不登校児童生徒への支援の校内での組織づくりや家庭や関係機関等の連携する際の重要なポイントを確認することができた。 ○ 2点目。どうしても自分がどうにかしないと抱え込んでしまうのだが、今回の研修でチームで取り組むことの重要性・有用性が理解でき、精神的に大変楽になった、という声があった。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き、「令和元年度函館市におけるいじめの状況について」である。 ○ 「令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」において、函館市の各小・中学校のいじめの認知件数や発見のきっかけ等についてまとめたものである。 ○ いじめの認知件数について、前年度に比べ、令和元年度は、小学校は減少、中学校は増加した。平成27年度より、国からの通知や方針、ガイドラインを受け、各学校のいじめ対策組織による組織的な判断や、教職員による日常的な情報交流等が行われ、子どもの様子を多面的に判断して、積極的に認知が行われた結果であると考えられる。 ○ 「アンケート」による発見がもっとも多かった。教職員や保護者、地域、関係機関が連携し、あらゆる場面で子どもを見取っていくとともに、学校においては、教育相談を充実させ、多面的に子どもたちの状況を捉えていく必要性がある。 ○ 「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」によるいじめが小学校・中学校ともにもっとも多かった。外見的にはからかいやけんかのように見えることでも、いじめられた児童生徒の感じる被害性に着目した見極めが必要である。 ○ 以上である。御意見や御質問があればお願いします。
委員	(特になし)
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○ 続いて研修にうつる。 ○ はじめに、平成30年3月 北海道いじめ問題審議会「研修用資料 調査報告書【公表版】」について、「事例を踏まえた函館市立学校に対する未然防止に向けた提言について」を視点に、話し合うこととする。 ・事案の概要について説明

○ 北海道いじめ防止審議会からの提言を踏まえ、「函館市立学校に対する未然防止に向けた提言」について、各委員から御意見をいただきたい。

-
- 委員 ○ いじめが起こったときに、どのように対応するのか、マニュアルのようなものを作った方が良いのではないかと思っている。
- 委員 ○ マニュアルがあるとしたら、どのようなものなのか具体的に知っておく必要があると思う。
- 委員 ○ いじめに関わるアンケートを紛失したというケースがあったと不確かな話であるが耳にした。その様なことが無いように、管理について徹底されているのか、チェック機能をどうしたらよいのかと考えている。
- 事務局 ○ 「チーム学校」ということで聞きたい。学校の中でいじめがあったときに、学校内でどのように動くのかということを、各学校で話し合っているのだろうか。
- 事務局 ○ 事務局で把握している内容をお伝えする。文部科学省のガイドラインにもあるように、「チーム学校」は基本的に校内の体制もあるが、加え、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをチームとして入ってもらい専門的な視点から対応を求めることとなっている。しかし、ここまでできている学校があるかは、現在、把握していない。
- 委員 ○ スクールカウンセラーであれば、月に3~4回で一日4時間程度の勤務であり、いじめの把握は難しい状態にあると感じている。いじめの把握をしている養護教諭や学級担任や部活動の顧問がいじめ対策の校内組織に入っていると思うが、今回配布されている研修の資料を読み、先生方の動きが大変鈍いと感じた。顧問や担任、養護教諭がもっていた情報を共有したり、管理職がリーダーシップを発揮し、方向性を示したりしていればこのような事態にはならなかったのではないかと感じた。学校独自の対応によって違ってくるのだろうと思うが、各学校が対応の方法等について作り上げてほしいと思う。
- 委員 ○ 全国の調査から不登校児童生徒のうち、いじめが原因で不登校になった割合は、小学生で0.8%、中学生は0.6%程度である。函館の状況で言うと、およそそれに近い状態にあると思われる。実際に私たちが関わっていく中で、いじめが主原因で不登校になったという児童生徒は少ないが、注目すべき点は、かなりの数の子どもがいじめではないが、友人関係が原因で不登校になっているとのことである。事例にもあったように、様々な人間関係の中で言葉だったり、態度であったりに対して、心が傷ついたり、ストレスを感じたりして不登校につながっている子ども達が非常に多いと思っている。
- 委員 ○ 現在、いじめによる事案で学校に関わっていないが、函館市の実情を見ると、子ども達が人間関係の中で悩んで不安がっている状態がある。そのような状況については、校内の委員会の中でしっかりと受けとめて学校でしっかりとやっている事例を聞いており、各学校でいじめへの対応は各学校で実施されているという印象がある。
- 委員 ○ 未然防止の対策が重要と思っている。早期発見・早期対応が必要と思う。現場では、何気ないことから重大事態へ発展するという認識を学校では担任や管理職がもち続け、過ごすことが重要であると常々考えている。
- 委員 ○ 学部生にも授業力と生徒指導力が大切と言い、教育相談力・カウンセリング力などの傾聴する理論をしっかり学んでそれを実践で使えるような研修の場が必要と思っている。

委員	<p>○ 函館市が言っている学級に支持的風土をつくっていくことが重要だと思っている。事案が大きくなる前に、学校が未然防止にエネルギーを注ぐことが重要であると常々思っている。</p> <p>○ 今回の事例を踏まえると、重大事態にならないようにチームで対応することが重要であることがわかった。悪い方向にいかせないためにも対応のマニュアルをつくるなどして進めていかないと、また、同じようなことが起こってしまう可能性があるのではと思ってしまう。</p>
委員	<p>○ すぐに異変に感じられるかが大切であり、未然防止につながることである。いじめ防止の啓発について計画的にやっていくことで、子どもばかりでは無く、保護者への理解も進み、いじめの減少につながると思っている。</p> <p>○ いじめの未然防止という視点から考えてみたが、不登校の原因が、学校への行きにくさを感じている子どもがたくさんいて、今年度、コロナの休校があったり、休み癖がついたりして、ますます学校に行けなくなったという実態もある。</p> <p>○ 相談の中で、まだまだ心の内を話せていない子どもがたくさんいるのではないかと思っている。</p>
委員	<p>○ チーム学校としてスクールカウンセラーが学校に入っているが、なかなか限られた時間の中で、相談ができないということもあると思う。ぜひ、専門家・関係機関との連携ということで、関わっていきたいと考えている。</p> <p>○ 今回の事例を見ると、先生方の人間関係が発見を遅らせたり、自分で抱え込んだりして、遅い対応になっていると思われる。ということは、結局は教職員内の信頼関係や保護者との信頼関係をつくっていくということが、チーム学校をつくる基本ではないだろうか。</p>
委員	<p>○ 担任だけで抱えるのではなく、学年主任や管理職に相談できる場所があって、隣の学級の担任も協力するなど、学校として対応するという意思疎通ができることが大切で、それを各学校に任せるのではなく、対応のモデル提示やシステムの構築を市教委がつくるのがよいと思った。</p>
委員	<p>○ 私たちが不登校の対応で学校に入るときには、私たちと管理職だけというよりも、私たちと担任・管理職・養護教諭・主幹教諭等、複数の先生方と情報を共有しており、事案によって、誰が会議に出席するかというシステムができあがっているという印象があり、不登校以外の事案についても対応する体制ができていると思われる。</p>
事務局	<p>○ 次に、平成29年3月文部科学省「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」について、「いじめ見逃しゼロに向けて～学校や家庭、地域、関係機関等の連携の在り方について～」を視点を、話し合うこととする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の設置者および学校の基本姿勢について説明 ・重大事態を把握する端緒について説明 <p>○ ガイドラインに基づき、学校や家庭、地域、関係機関等の連携の在り方に関して、いじめ見逃しゼロに向けた取組等について、各委員から御意見をいただきたい。</p>
委員	<p>○ 「いじめ見逃しゼロ」という問題設定は大変良いと思う。</p> <p>○ 重大事態が起きたときの第三者委員会ということで、コロナ禍でなかなか事情聴取もできにくい状況であったが、新型コロナウイルス感染症の終息が見えないことから</p>

- オンラインシステムを活用しつつ、事情聴取を行うことを念頭に置きながら、具体的な重大事態が起きたときにどのように動かなければならないのか、どのような調査が必要なのか、ということの確認が必要になると考えている。
- 委員 ○ 重大事態の説明があったが、どのような事案の取扱いを考えているのか。子ども、保護者からの訴えがあったものを取扱うなどのラインを決めておかなければ、どのような内容でも動くことは難しい。
- 委員 ○ その辺りの基準に難しさがある。
- 委員 ○ どのような内容でも、重大事態になり得る可能性が現場にはあると思う。事務局はどのように考えているか。
- 事務局 ○ 基本はガイドラインに沿っていく。ただし、30日間の欠席を待ってれば、遅くなってしまう可能性もあることから連続欠席が見られるのであれば各学校には重大事態になる可能性があることを踏まえた対応をお願いしている。これが基準の一つと考える。
- 事務局 ○ あとは各学校も担任だけだったり、一方の管理職だけだったりの対応ではなく、子どもからの聞き取りであったり、保護者の面談だったりを必ず複数名で行うようお願いしている。
- 事務局 ○ 全てではないが、申し立てがあれば、重大事態の可能性があるととして、対応することになる状況にある。
- 委員 ○ 運用としてはこれでよいと思う。その他に、危機管理の視点から、後で証拠として使えるように、誰と誰がどのような話をしたか、聞き取りのメモを作っておいて欲しい。何時何分にどこで、誰と誰がどのような話を誰から聞いたかなどを簡単にいいのでA4用紙1枚程度にまとめて欲しい。また、聞き取りだけでは無く、内部の話合いについても、例えば、学年主任と担任がこのように話し、このような方針にした等の経過がわかるものを作っておいて欲しい。
- 委員 ○ ガイドラインに沿って、いじめ見逃しゼロの視点はよいと思う。自分たちも疑いからの通報で虐待等について動く。緊急性を判断しながら2～3日で事実確認を行っている。
- 委員 ○ 欠席30日という基準があるが、その事前の欠席による子どもや保護者の状況の確認を進めていくということが大切である。また、いじめが原因であるのならば、すぐに対応することが重要となる。それが、いじめ見逃しゼロにつながると思う。
- 委員 ○ 聞き取りについて気になるのが、子どもと信頼関係をもって行うために、カウンセリング的な面接が必要になると思う。昨年度、司法面接法の研修をしたが、子どもが本音で話してくれるように、子どもの気持ちに寄り添いながら聞き取りができるようになることが大切である。
- 委員 ○ 「いじめ見逃しゼロ」というのは、一番最初の芽のうちに気付いてあげて、芽をつぶしてあげるということが大切である。学校現場でいじめのアンケートをとるが、事案が把握されると担任と管理職だけで多くが解決しているのではないと思う。その辺をもう少し、学校全体で対応できるといいと思う。
- 委員 ○ 全国調査からも各学校でいじめの認知については積極的にできていると考えている。その様な中で、重大事態は、一步でも遅れると保護者ともこじれてしまうので、どのように動くか委員の中で共有しておく必要があると話を聞いて思った。
- 委員 ○ 重大事態の調査については、資料にもあるとおり、いじめの事実の全体解明とともに再発防止が大きな役割となる。再発防止をするためには、事実をはっきり

事務局
委員

と突き詰めて行くことが重要であると思うが、憶測や勘などに頼るのではなく、客観的事実をたくさん集めていくしかないと思っている。

- そろそろ終わりの時間となってきたが、最後に何か御発言は無いかな。
- 司法面接の手法について、受けていない人もいるので次回の機会にやってもいいのではないかと考えている。

事務局

- 初めての WEB 会議システムを活用しての協議であったが、貴重な御意見や御提案をしていただき、市教委としても再度、見直しながら子ども達のため、函館市のために取り組みたいと考えている。

事務局

- 閉会
- 令和2年度函館市いじめ防止対策審議会重大事態調査部会を終了する。

|